

学校教育目標 【自立と共創】自ら気づき、共に学ぶ、感性豊かな生徒

重点目標 「一人一人の良さがともに伸びる学校」

合言葉 「Challenge、Communication、Confidence」



豊かな人間性

- 自律心を養い、他者とともに協調する
- 人権感覚を高め、温かな心で生活する
- 爽やかな気持ち、感動する心を大切にする

健康・体力

- 心身の健康づくりのための自己管理能力の育成
- 体育的行事の充実と推進
- 部活動への積極的な参加

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

授業を通して、身につける資質・能力を、一人一人の生徒が自覚的に理解をし、アウトプットする

○学び合う

根拠を持って自分の考えをまとめ、伝えることができる

○わかり合う

他の意見や考えを理解し、違いを認めることができる

○高め合う

よりよい考えを創ろうとする姿勢をもつ

何が身についたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

「生徒を主語」にする授業づくり

- 生徒一人一人が学びの見通し・期待と、授業を通して身につける資質・能力の内容を理解する
- 授業を通して身につけた資質・能力を授業の振り返り・省察することにより、自己の学びを自覚する
- 学習評価は、一人一人の生徒を伸ばすためであり、良さを見いだすために行う

<生徒の実態>

- 学年が進むにつれて、学習意欲と責任感が成長している
- 自分の役割を全うする姿勢があり、建設的な人間関係ができる
- より多くの世代と関わる経験を増やすことが望ましい

子供の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・情報の共有による個への対応
学習指導、教育相談、進路指導
- ・保護者、スクールカウンセラー、外部機関との連携

<目指す生徒の姿>

- 自分で決め、可能性を広げる生徒
- 対話を通して、関わりを深める生徒
- 最後までやり遂げ、新しいことにつなげる生徒

何を学ぶか ○教育課程の編成

- ・教育目標や基本方針等を家庭や地域と共有する
- ・地区の特色を生かし、学習の基盤となる資質・能力を育成する
- ・効果的に縦割り集団で活動し、共に伸びる編成をする
- ・義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な編成をする

どのように学ぶか ○教育課程の実施

- ・聴いて→考えて→つなげる授業
- ・生徒が説明する授業
(より深い理解、理解した内容を自分なりに言語化)
- ・書くことにより、自己の学びを整理し、再構築する
- ・アウトプットする機会を多く設定する

実施するために何が必要か

○指導体制の充実（幼小中連携）、家庭・地域との連携・協働

- 幼小中連携をベースにした校内研修体制の充実
「野の花のようなしなやかさと清らかさをもっている子」
- ・学びの接続を意識した研修交流〈授業改革〉
- ・地域を巻き込んだ活動の推進

- コミュニティ・スクールの推進
- ・家庭、地域、関係諸機関との連携を図る（熟議）
- ・地域から学ぶ（篠笛、野の花学習、和文化体験 等）
地域のために（地域行事への参加、地域への提言 等）
地域とともに（地域住民との懇談会、地区体育大会 等）

安心・安全

- ・すその COCOLO プランの推進〈魅力ある学校づくり、Q-U〉
- ・インクルーシブ教育をふまえた生徒理解
- ・防災教育や安全対策、人権教育等に関する学習の充実

開かれた学校作り

- ・学校ホームページ、学校たより等による学校情報の発信
- ・家庭や地域の評価による教育活動の点検と改善
- ・地域行事への参加、学校公開 等